

第4回桜ヶ丘地区交通まちづくり意見交換会 質問・意見と回答

番号	質問・意見	回答内容
全体討議		
1	【意見】 資料も説明も去年と同じことの繰り返しで、鉄道高架ありきの形になっている。地元では「まちづくり市民協議会」があり、地権者も多く参加しており、月1回で話し合いを行っている。このままでは、いつまでも合意できない。	検討委員会において、地元の皆様に現状の課題等をていねいに説明すべきとの指摘があり、改めて説明させて頂いている。 検討委員会へは意見交換会において鉄道地下方式の支持が多いと報告している。
2	【意見】 我々は専門家ではないので大和市でまちづくりの姿を示してもらえない。鹿島跡地開発に関して、市が関知していないとすることはあり得ない。厚木市では10年かけて市と住民が話し合い、合意に至っている。	意見として記録
3	【意見】 神奈川県が最初から鉄道高架ならば、意見交換会を行う必要はないのではないかと。	鉄道高架に決定している訳ではなく、鉄道地下は事業の実現性から考えると特別な条件が必要だと考えている。 鉄道地下は簡単ではなく、実現のためには正当な条件が揃わないと成立しないと考えられる。成立しない場合には事業が長引き、進まなくなることあり得る。
4	【意見】 鉄道立体化で延伸の場合についても話すのであれば、市民全体ぐらいの広さで話し合いが必要ではないかと。	交差方式は、意見交換の意見を検討委員会へ上げ、検討委員会で検討して、そこからの提言を受けて県が決定することで考えている。
	【意見】 鉄道の西側が2車線のままでは、その先の渋滞がひどくなる。最初に一番難しい場所を検討しても先に進まないため、先に西側を進めるべきである。	鉄道の西側については、順序立てて進めて行かなくてはならないが、踏切のボトルネックが解消されれば効果はあると考えている。
5	【意見】 幹線道路の輸送力、踏切の安全対策の2つが問題であり、まちづくりは新しい話である。鉄道地下は特別なことであり費用を正確に示して欲しい。また、まちづくりも地元の声を入れて検討して欲しい。	意見として記録
まちづくりの話合いの場について		
6	【提案】 意見交換会では技術的な説明がされる場であるため、まちづくりのための市民討議会として、自由参加で3つの交差方式でまちづくりの姿を検討してみるのはいかがでしょうか。まちが持っている可能性と限界を理解するためにもよいと思う。	-
7	一同賛成	-

番号	質問・意見	回答内容
8	<p>【意見】 桜ヶ丘から高座渋谷にかけての小田急沿線の住民を対象にして欲しい。</p>	<p>桜ヶ丘住民を中心に去年の市民協議会参加者に声をかけることを提案する。まちづくり市民協議会やこの意見交換会とは別に、3案でまちづくりを考えた場合どうなるのかということを検討評価することが良いと考えている。</p>
9	<p>【意見】 話し合いは必要であるが、鉄道高架ありきでは良くない。まちづくりの話は大和市ですぐにでも動いて欲しい。また、渋滞解消についても動いて欲しい。</p>	
10	<p>【意見】 B/Cでは鉄道地下における地上部の活用（骨董市開催など）の便益も取り入れて欲しい。</p>	<p>意見として記録 【結果】 相鉄線大和駅での骨董市等における売り上げ実績等のデータはなく算定できなかった。600万円/年の売上で総便益が約1億円でありB/Cに与える影響は僅かである。また、鉄道高架の場合には商業施設の経済効果もあり鉄道地下に限ったことではない。なお、事業採択の判断基準となるB/Cには地上部活用による経済波及効果は便益算定の対象とはならない。</p>
11	<p>【意見】 資料4の鉄道高架、鉄道地下の表記に誤りがある。</p>	<p>表記の誤りを修正する。</p>